2016年
9月 1日
No. 98
隔月1回発行

特定非営利活動法人
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク会報

ひきこもり

イラスト　高津達弘

会報は札幌市さぽーとほっと基金 木村弘宣ひまわり基金の助成により作成されています。

Ｉｎｄｅｘ

2ページ　LPF活動報告
　子供のひきこもりを考える家族セミナー　小樽市で開催
　自助会「SANGO の会」障がい福祉サービスを学ぶ　ほか
3ページ　10～11 月開催・当 NPO 主催イベント
4ページ　知への探求～杉本流インタビューの極意
5ページ　特集: 安心できる場を目指す　青年・家族・ボランティアの会
6ページ　当事者が語る家族のあり方／質問 Q&A コーナー
7ページ　ひきこもり地域支援センター無料相談会のお知らせ　ほか
8ページ　こちら事務局／編集後記

「子供のひきこもりを考える家族セミナー」小樽市で開催

7月13日水曜日、小樽市主催の平成28年度「子供のひきこもりを考える家族セミナー」に招かれ60分の講話と30分の質疑応答を行ないました。不登校やひきこもりのわが子をもつ家族が参加しておりましたが、高年齢化が進むひきこもりの現状はどこも同じであります。そして近年になって不登校の学齢期のわが子をもつ家族が参加するようになったようで、この課題も教育のあり方を含め今後とも考えていく必要があります。

セミナーでは、私たちＮＰＯが行なう多様な実践活動に関心が寄せられました。小樽にも当事者が安心して集まれるところがほしい、との要望が出されました。

セミナー終了後に行なわれている茶話会にも参加させてもらいましたが予想以上に盛り上がりました。かしこまった例会ではなかなか吐き出せないことを茶話会の中で打ち明けられるところに、当事者同士の強みを感じます。そして担当の精神保健福祉相談員に対する当事者からの評判がものすごくよかったです。まさに福祉は「人なり」です。

札幌市では平成30年にひきこもりの実態調査を行なう予定です。小樽市もぜひとも実施してほしいと思います。

ひきこもりピア・サポーターに関わる「当事者ニーズ調査」の実施

公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成事業で行なわれるモデル事業と同時並行して、北海道内の公私関係団体機関の協力のもと、ひきこもりピア・サポーターに関わる「当事者ニーズ調査」を実施するため調査票を当事者、家族を中心に１７０通発送しました。本調査は、不登校やひきこもり経験者が担うひきこもりピア・サポーターについて、実践現場ではまだ発展途上にあり、今後活動をすすめる上で検討が必要なため、支援を受ける当事者のニーズをしっかりと汲み取りそれに応えていく支援者養成研修プログラムの開発を目的として実施しております。

本調査結果は、事業報告として日本社会福祉弘済会に提出し、今後の国や地方自治体の制度政策に役立ててもらう予定です。

ＳＡＮＧＯの会の近況報告　障がい福祉サービスを学ぶ

8月22日月曜日、自助会ＳＡＮＧＯの会8月定例会は札幌市出前講座としてひきこもりに活用できる「障がい福祉施策サービス」について、札幌市保健福祉局障がい保健福祉部担当課長の代理である佐野様に台風接近悪天候の中お越しいただきプレゼンと質疑応答を実施しました（写真１）。当日は天候が悪く参加者は7人と少なめでしたが、大別して障がいの概念と福祉サービス利用の流れの２点についてわかりやすく説明していただきました。

札幌市でも就労など社会生活がうまくいかない人たちのなかに障がい者手帳を申請しに来る当事者が見受けられます。札幌市によれば近年は療育手帳軽度（Ｂ―）認定交付者の増加が著しく、この中に発達障がいを伴うひきこもり当事者が含まれるとのことです。また、精神障害者保健福祉手帳交付者も右肩上がり。主にうつ病によるもので、労働環境が悪化していることが改めて伺えます。

社会環境がますます厳しさを増すなかで、既存の枠組みにはめ込む支援には一定の限界があります。今後はひきこもりが長期高年齢化して家族の支えだけでは生活が困難になる危機管理も見据えてひきこもり当事者の等身大に立った無理のない社会生活のありようを考えていくことは必要と思われます。その意味で今回の札幌市出前講座は、無業が続く長期高年齢ひきこもり当事者が障がい者手帳や自立支援医療の制度をうまく活用して就労移行支援や就労継続支援などの利用を視野に社会からの配慮によって生活を送れる道筋もあることを頭のどこかに置いておく点において学ぶところが大きかったと思われます。

（写真 1）札幌市出前講座を熱心に聴く SANGO 会メンバー

当事者が求める支援～生きるのが楽になるために～（２０１６年度北海道ろうきん社会貢献助成金事業・北海道ひきこもり当事者連絡協議会設立事業）
ひきこもり当事者が自分らしく安心して生きていくことができる地域づくりを目指して活動していくことを目的に北海道ひきこもり当事者連絡協議会を設立します。これを記念し、神奈川県を拠点に不登校・ひきこもりの経験者の立ち位置から発信し実践研究を続けるヒューマン・スタジオ代表の丸山康彦氏を招き、ひきこもり当事者が楽になり生きやすくなるような支援のネットワークを参加者とともに考えていきます。
　と　き：10月１５日（土）午後１時３０分から午後４時３０分まで
　会　場：一般財団法人北海道青年会館札幌ハウスセミナーセンターユースホール
　住　所：札幌市北区北６条西６丁目３－１
　交通機関：JR 札幌駅から徒歩７分

10月～11月に開催される当ＮＰＯ主催イベント

それぞれの経験的知識がつなぐひきこもりピアサポート（平成 28 年度 公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成金事業・当事者参画型ひきこもり支援者養成研修プログラム開発モデル事業）
ひきこもりピアサポートはひきこもりを体験してきた人でなければわからないそれぞれのメンバーの貴重な経験にもとづく知識・技術にあり、専門職の知識・技術体系と比べてより実際的・実用的でより包括的な実践の強みをもつと考えられています。モデル事業では、全国各地の最前線でひきこもりピアサポートを実践している代表者に登壇していただき、ひきこもりピアサポートの現在と未来を考えます。
　と　き：10月３０日（日）午後１時００分から午後５時００分まで
　会　場：北翔大学北方圏学術情報センターPORTO　５階 会議室Ａ
　住　所：札幌市中央区南１条西 22 丁目１番１号
　交通機関：地下鉄東西線・円山公園駅下車５番出口から徒歩５分

道産こもり 179 大学 in 津別-当事者研究大会-（２０１６年度北海道ろうきん社会貢献助成金事業・北海道ひきこもり当事者連絡協議会設立事業）
地域住民と専門職が協働して地域の中に総合相談の拠点をつくり、ひきこもりといった社会的に孤立し生活が困窮している人たちをサポートする網走郡津別町において、社会福祉法人津別町社会福祉協議会のバックアップのもと「道産こもり 179 大学」を初めて網走郡津別町で開催し、ひきこもりという貴重な経験的知識をこれからの町をつくる新たな価値に転換していきます。
　と　き：１１月１２日（土）午後１時３０分から午後４時３０分まで
　会　場：津別町中央公民館２階 研修室
　住　所：網走郡津別町字豊永５番地１
　交通機関：北見市から車で 40 分、北見バス 津別町役場下車 徒歩５分

北海道ひきこもりカフェ in 旭川（平成２８年度北海道社会福祉総合基金助成事業・北海道ひきこもり当事者会協同実践型地域間連携活動促進事業）
北海道内で活動するひきこもり当事者組織・４団体（旭川・NAGI、函館・樹陽のたより、帯広・リカバリースポット、札幌・ＳＡＮＧＯの会）が協同して、一人ひとりのひきこもり当事者の思いを伝える「パネル展」を開催するとともに、４団体によるテーブルを設けた「北海道ひきこもりカフェ in 旭川」において地域の垣根を越えた情報交換を図りつつ、ひきこもり当事者を真ん中に据えたこれからのコミュニティづくりを参加者とともに語り合います。
　と　き：１１月２７日（日）午後１時３０分から午後４時３０分まで
　会　場：旭川市障害者福祉センターおぴった２階 会議室１
　住　所：旭川市宮前１条３丁目３番７号
　交通機関：ＪＲ旭川駅から車で約５分、路線バス「合同庁舎前」で下車し、徒歩約５分

参加対象：ひきこもり当事者経験者とその家族、支援者など
参加費：お一人につき 500 円（資料代として）事前申し込みが必要です。詳しくは事務局まで。

ひきこもりへのアプローチの幅を広げたい

知への探求～杉本流インタビューの極意

有識者へのインタビューを行う
筆者（左）

昨年の今頃に商業出版となったインタビュー本「ひきこもる心のケア―ひきこもり経験者が聞く 10 のインタビュー」は、レター・ポスト・フレンド相談ネットワークの会報用の有識者インタビューが基盤になっていたわけで、改めて田中理事長、吉川理事に御礼申し上げます。その本のあとがきに記載した通り、いまも私は個人ホームページサイトでインタビュー活動を継続しています。その活動には経済的見返りはないですが、経済の見返りのある無しが、必ずしも社会的活動に足踏みをさせるものではないと思っています。社会の承認の意味では職業訓練やボランティア活動のほうが通じが良いでしょうが、私個人の社会やひとについての理解を深めたいという思いと、届け行くインタビューの内容が、少しでも自分の目には届かないところであっても、誰かの必要性につながればいいという祈りも含んで活動しています。

インタビューの内容は幸い協力を得た人たちの中身が深く、読みどころが満載で、本の延長に属する話題ももちろん、その分野からだいぶ離れた、自然科学の分野に属するものもあります。本の延長から考えれば、「つながりはどこ？」と思われる節もあるでしょうが、私自身はすべてつながりのある内容であると考えています。一見、見えないかもしれませんが、「対人・対社会」に敏感になった自分自身のとらわれからの解放や、納得のための対話であって、こじつけて言えば、ひきこもりへのアプローチの幅を大きく広げていきたい試みのひとつです。そしてやはり正直にいえば、そこのこだわりからもいつか離れたフリーな活動にもしていけたらと願ってもいます。

インタビュー本以外に現在１２人の人の話を聞き書しながら思うことは、私自身いろんな疑問を抱きながら生きてきたのだな、ということです。おそらくそれを日常の中での密で雑多な人間関係の中で消化してこなかったから、改まって普通の人たちがあまりしないような質問を有識者のかたなどに訊ねてきたのかもしれません。もちろん、完全にこもっていた頃はそれらを質問化するなどとうてい考えられないことでした。（いまもいろんなことを言い淀むタイプに変わりありません）。それに応えてもらえるのは私には大変なギフトであるし、インタビューに応えてくれたかたがたはみな、時には私の疑問を一緒に考えながら答えてくださいました。その事実こそがとても嬉しいことです。

また、インタビューは準備が楽しい。この人にインタビューが出来たらとの妄想段階も楽しいですが、応諾を得てインタビューに臨むまで、どのようなことに対象のかたは関心を持っているのか素人なりに調べ、その関心に一歩でも近づく独学の過程がとても楽しいのです。そして聞いた話を全部起こしていく過程でまた新しい学びがあります。対象者の畏敬の念のようなものが再び生まれます。

しかし編集の過程は今でも悩みの種です。どうしても捨てられず、皆さんロングなインタビューになり、読み手には時間や気力を削ぐ結果を招来しているかもしれません。語り手の思いを、そして聞き手の思いも含めるとどうしても長くなります。その点、昨年春までプロの編集者が細かく原稿を読んで朱を入れてくれた経験が、ひとり作業の限界を教えてくれて「君はアマチュアだね」と知らしめてくれます。私としてはプロ編集者の力量を忘れぬように、されど自分の思いに軸足を置きながらの作業です。

ところで、自分の家庭の事情をいえば９０になる父は、いま三ヶ月の老人保健施設入居をさせていただいています。本人がそれを応諾してくれたのはひとつ違いの母の難聴の悪化と判断力低下も関係しています。私自身、家族間の調整に当面時間を割かれていました。正直自分がいないと９０の老親たちは家庭で自立生活は無理です。政府は介護離職が前提の社会政策を考えるべきです。１０年後にはこの非正規４０％時代の帰結として介護が社会的な大問題となるでしょう。ひきこもり云々を超えて、もっと真に迫った問題となるのは容易に想像できます。新しい社会政策と、新しい心理学、哲学、あるいはしっかりとした宗教観が求められるでしょう。そのような見取り図も視野に、今の問題と近未来の課題を見据えながらの、質疑に応えてくださるかたがいらっしゃれば最高です。私自身今後も疑問や悩みは尽きないでしょうから、話を伺いたい相手は当面尽きることはないと思っています。

（杉本　賢治）

Topics
トピックス

安心して集い、安心して休め、ほっとできる場を目指す～

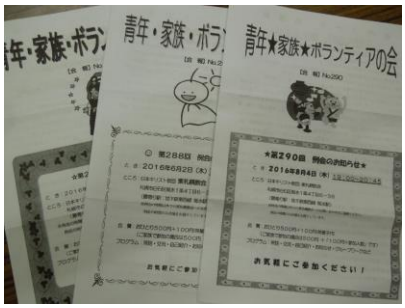
青年・家族・ボランティアの会

（写真１）例会の様子

８月４日に開催された「青年・家族・ボランティアの会」を取材で訪れた時、会場である日本キリスト教団東札幌教会の建物は夕暮れどきの薄暗さに溶け込んでいた。静まりかえった玄関。呼び鈴を押し直ぐに教会の牧師で当会の世話人でもある黒田靖さんが出迎えてくれた。

「青年・家族・ボランティアの会」は、不登校・ひきこもり・対人不安など青年期の悩みを持つ当事者やその家族、青年期に関心のあるボランティアの人たちが集まる場として1992 年５月に北海道立精神保健福祉センターに相談来所していた青年・家族の希望から、治療の場以外に集える憩いの場として設けられた。現在は数名の世話人が持ち回りで会の運営を担っている。毎月第一木曜日に開催されている例会では、参加者は、お茶やお菓子を食べながら気楽に話しをする人もいれば、横でギターを弾いていても構わない。自己紹介が苦手な人はパスすることもできる。自由気ままに過ごせる場だ。

設立以来 25 年、毎月集りの場を継続維持している老舗の伝統と実績が当会を支えている。参加人数は最盛期で３０名を超す時期があったが、現在は平均４人程度に留まっている。取材日の参加人数は４名（写真１）。今から５年前に筆者が訪れた時は 15 名程度の参加者があったので、この数年で利用者数は激減した。その理由として「インターネットを使いこなせる人がいないため、周知のための外部発信ができず、情報を必要な人たちに伝えることができない」と黒田さんは話してくれた。当事者同士の人間関係の難しさや、集団をとりまとめることの困難さもあるが、黒田さんは「参加人数の問題ではありません。この会に来られて参加者同士が悩みながらも自分らしくいられる場所は必要です」と述べ、今後も続けていく意向を示した。



（写真２）

「青年・家族・ボランティアの会」では例会の様子をまとめた会報（B5 版４ページ）が毎月発行され参加者に送付されている（写真２）。バックナンバーに掲載された例会の様子を綴る記述を読むと『今回の参加者はなんと２名！・・（中略）・・次回はもっと人数が増えますように』と記載されていた。意外にも暗くならず少ない人数なりの楽しさが伝わる内容で、参加者直筆の思いが込められた言葉も紹介され手作り感あふれる温もりが感じられた。

仕事のため午後８時過ぎに参加したＡさんは世話人の一人で会報づくりを担当している。「できれば参加者を増やしたいですが」と一言感想を述べてくれた。１０年以上不定期に参加してきたＢさんは、不登校の子どもが参加した時に何気ない言葉をかけてあげたことで、その後学校に行くようになったエピソードを披露してくれた。このような気骨ある参加者が当会を支えている。現状は少ない参加者だが、一人でも参加者があり続ける限り灯りを消さないでともし続けている理由は、歴史ある「青年・家族・ボランティアの会」の精神がなお生き続けている証でもある。

「青年・家族・ボランティアの会」とは別組織ではあるが、会場の東札幌教会の牧師として赴任 11 年目の黒田さんは、北海道社会的ひきこもり問題を考える実行委員会・委員長として毎年ひきこもり支援のあり方を学ぶイベントを開催してきた。社会的な課題を地域の課題として身近にとらえ考えていくことが望まれる昨今、20 年以上続いた「青年・家族・ボランティアの会」での活動を通して「無関心ではいけない。東札幌教会がひきこもりに関心ある活動を続けることで、対外的に認識してもらえれば嬉しいです」と答え、「がんじがらめの社会の中で、できないことはできないで良いと思う」と黒田さんは言う。マニュアル通りにできないと社会に溶け込めない世代にとっては『ほっと一息つくことができる』集りである。

青年・家族・ボランティアの会
開催日時：毎月第一木曜日 19:00～20:45
開催場所：日本キリスト教団東札幌教会
住所：札幌市白石区菊水１条４丁目 6-36
アクセス：地下鉄東西線 菊水駅５番出口から徒歩 10 分
会費：おひとり 500 円＋100 円（茶菓子代）
　　ご家族で参加の場合 500 円＋100 円×参加人数分
※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

当事者が語る家族のあり方

親子関係のあり方について

樹陽のたより　田中　透

僕はひきこもっていた中で、母親にたくさん助けられてきたのと同時に、たくさんぶつかり合ってきました。その経験の中で、ひきこもり当事者として親にはこのように接してもらえたら当事者はとても気持ちが楽になり、元気になるのになあと思うことがありましたし、親の言葉によって、すごく自信を失ってしまったこともあります。

今回はそんな親子関係について、僕なりの考えを書きたいと思います。

僕が親子関係において一番大切だと思うことは、親は子どもを心配するのではなく、信じてあげてほしいということです。「あなたなら、できる」「あなたなら、大丈夫」「あなたを信じてるよ」。こんなメッセージを子どもに伝えてあげてほしいのです。

反対に、「このままでどうするの？将来についてどう考えているの？」というメッセージは、子どもの自信を奪ってしまいます。それよりも、あなたなら大丈夫というメッセージのほうが子どもは自信がつくんです。

子どもを安心させるメッセージを言葉や態度で出したほうが、子どもは自信がつき元気が出て、行動につながりやすいと思います。子どもさんへの気持ちは、子どもさんが目の前にいなくても、伝わります。だから子どもさんが目の前にいない時こそ、子どもさんを信じる言葉や、子どもさんをほめる言葉を口に出して言ってみてほしいと思います。むしろ子どもさんが目の前にいない時の方が、子どもさんへのほめ言葉を口に出しやすいのではないかと思いますので、ぜひ試してみてほしいです。

それともう一つ、子ども（当事者）の方へお伝えしたいことがあります。それは「自分はこのままで価値がある」この言葉を1日100回口に出して言うことを、1年くらい続けるつもりで挑戦していただきたいのです。

「自分はこのままで価値がある」という言葉を口に出して言うことで、自己肯定感・自己重要感が高まり、自分は今このままでも大切な、価値のある存在なんだと思えるようになります。そうなると心が明るく軽くなり、だんだん自分がやりたいことがわかるようになってきて、行動をすることができるようになっていきます。とてもすごい効果のある言葉なのでぜひ口に出して言ってみてくださいね。この言葉は親御さんが言うことでも効果がありますので、親御さんが言っても大丈夫ですよ。さいごまで読んでいただきまして、ありがとうございました。

Q. 25年にわたりいつか本人が動き出すだろうと見守ってきました。これまでにいくつかのアルバイトはしたものの長続きはせず、ご縁でかかわりをもった社会参加ボランティアも「こんなことではどうにもならない」と完全に身を引いてしまいました。ますます自宅にいる時間が長くなり最近心身に変調をきたしており検査を受けたところ、自律神経から来るものと言われ親として心配です。親はいつまでも生きておりません。先々の展望が見えません。今後どうしたらよいでしょうか？

A（ピア・サポーター吉川修司）

ひきこもり期間（ほぼ無業の状態）が25年というのは、赤ん坊が成人するまでの長い期間です。一般的に就労している人と本人の生き方を比較すれば悩みの渦から抜け出せなくなるため、与えられた現状の中でいかにして「持続可能な人生」を実現させるかを考えて、ひきこもりもまた一つの人生と思い、そのオルタナティブな生き方の中に意味を見出して前向きに取り組んでほしいですが、一方ではひきこもり生活を続けることで、収入を持たないまま50歳近くに達した子どもと、80歳近くとなった親が困窮に追い込まれる「8050問題」が新たな課題として浮上しています。当然ながら親亡き後の心配も尽きないため、今から本人に対して家庭の経済状況を話し、いつまで現状の生活が可能なのか理解してもらい、相談機関への連絡方法など必要最小限の情報の共有を図ってはいかがですか。親が子どもの人生を死後も引き継ぐことはできませんので、わが子の面倒は親が生きている間だけでよいと割り切り、親自身の生きがいも見つけてください。

何らかの生活上の不安や危機感を感じたため社会参加ボランティアをやめた本人の気持ちを考えると、悩みの本丸に手をつけずに「今できることをする」というボランティア的な精神だけでは根本的な解決にはなりません。20年以上のひきこもり状態がもたらす課題は大きいと考え、ひきこもり地域支援センターなどしかるべき相談機関へ相談してください。

親がひきこもる本人を見守る姿勢は子どもにとってはありがたいのですが、自宅にいる時間が多くなることで、健康への懸念が増してきます。自律神経の不調や、長期間就労経験のない人が抱く罪悪感がうつ病を生み出す原因にもなるため、専門医にかかっているのであれば、障がいの有無も含めて客観的な判断をしてもらう時期にきているのではないでしょうか。

将来の不安は残りますが、何歳になってもその人なりの人生の紡ぎなおしはできると思います。

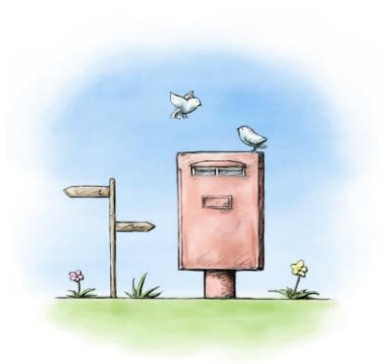
札幌市ひきこもり地域支援センター出張無料相談会のお知らせ

札幌市内に在住で、ひきこもりの状態にある方とその家族を対象にした出張無料相談会が下記の通り実施されます。来年１月以降、豊平区・西区で開催予定。

開催日	会場	住所	対象地域
11月5日（土）	東区民センター別館	札幌市東区北10条東7丁目	東区・北区

開催時間：午後 1 時 30 分～4 時 00 分

相談希望の方は事前申し込みが必要です。詳しくは、札幌市ひきこもり地域支援センター（こころのリカバリー総合支援センター内）（TEL011-863-8733 相談専用）までお問い合わせください。



手紙（絵葉書）によるアウト・リーチを募集

公益財団法人北海道地域活動振興協会平成 28 年度ボランティア活動支援事業助成金として当 NPO が申請しておりました「長期在宅ひきこもり当時者を対象とした交流などの支援」事業が採択されました。
この事業により平成 28 年 10 月から来年２月末日まで、手紙（絵葉書）によるアウト・リーチを実施します。ひきこもりの当事者宛へ絵葉書を送ります。切手代などの利用料は無料です。希望者は事務局まで連絡ください。

応援クリックをお願いします！

NPO 法人レター・ポスト・フレン相談ネットワークでは、みなさまからの寄付など支援をお待ちしています。
インターネット応援サイト gooddo（グッドゥ）のページ内からも支援いただくことが可能です。ワンクリックで団体に課金されるシステムです。ご支援よろしくお願いします。
http://gooddo.jp/gd/group/letterpost/

私たちの仲間になりませんか　会員募集をしています

レター・ポスト・フレンド相談ネットワークは若者の範疇に入らない成年・壮年期のひきこもりへの対応に軸足を置きながら、ひきこもり当事者が社会に出たとき、自信や希望を持ちながら歩めるような新しい働き方を、当事者自らが創造しています。
ぜひ多くの方々に、私たちの活動の趣旨を理解していただき、ひきこもり当事者が自信をもって生きていくことのできる、新しい社会のあり方をみなさんとともに追求していきたいと考えています。

会　費

正会員	賛助会員	寄付金
入会金 1,000 円	入会金 1,000 円	一口 1,000 円～
年会費 3,000 円	年会費 2,000 円	

皆様からの投稿をお待ちしています

〒０６４－０８２４　札幌市中央区北４条西２６丁目３－２
「NPO 法人　レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」事務局　通信編集部　宛
ｅ－ｍａｉｌ；info@letter-post.com

こ ち ら 事 務 局！　　*今後の動き(2016 年9月～)*

◆「SANGO の会」例会のご案内

２０１６年９月、１０月は下記日程にて行ないます。初めての方も参加できます。概ね 35 歳前後のひきこもり当事者や経験者で、人との関係や会話に慣れたいと思っている方、またいろいろな情報を得たいと考えている方は、いらしてください。詳細は事務局までお問い合わせてください。初めて参加される方で、少人数で会うことを希望される方は、事前に事務局までメール、電話でお問い合わせのうえ初心者の例会にお越しください。

《通常例会》
と　き：９月２１日（水）午後１時 30 分から午後３時３０分まで
会　場：札幌市社会福祉総合センター３階　第二会議室
と　き：１０月１９日（水）午後１時 30 分から午後３時３０分まで
会　場：札幌市社会福祉総合センター４階 ボランティア活動センター　研修室Ａ
《初心者例会》
と　き：１０月１２日（水）午後１時 30 分から午後３時３０分まで
会　場：札幌市社会福祉総合センター４階 ボランティア活動センター　活動室
場　所：札幌市中央区大通西 19 丁目　（地下鉄西１８丁目駅下車徒歩５分）
※９月 29 日（木）は、奥三角山→小別沢盤渓散策地域めぐり登山を実施します。
　９月初心者例会振替とします。集合場所・時間は事務局まで。

◆社会福祉法人札幌市社会福祉協議会主催の市民啓発研修「一日福祉セミナー」のご案内

テーマ「ひきこもりの持つ可能性を地域の新しい力に」
一般市民向けでありますので、関心のある方はご参加ください。
講師：田中　敦（ＮＰＯ法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク理事長）
と　き：10 月 27 日（木）午後１時３０分から午後３時３０分まで
会　場：札幌市社会福祉総合センター４階　研修室
住　所：札幌市中央区大通西 19 丁目１番１号
※事前申し込みが必要。参加費 500 円。お問い合わせは、社会福祉法人札幌市社会福祉協議会・ボランティア活動センター電話：(011)623-4000 まで。

◆　平成 27 度事業の成果物発行のご案内

「北海道中高年ひきこもり就労準備支援事業・理解啓発リーフレット」（平成 27 年度公益財団法人北海道新聞社福祉振興基金助成金事業）
A4 判中綴じ製本フルカラー・全８ページ

「ひきこもりピア・サポーターによる手紙を活用した効果的なアウト・リーチ実践研究 報告書」（平成 27 年度公益財団法人日本社会福祉弘済会社会福祉助成事業）
A4 判モノクロ平綴じ製本・全 22 ページ

「在宅ケアにあるひきこもりの家族関係修復事業　ひきこモシリフューチャーセッション報告書」（平成 27 年度公益財団法人フランスベット・メディカルホームケア研究・助成財団助成事業）A4 判モノクロ平綴じ製本・全 28 ページ

部数には限りがあります。希望者には郵送料（５００円）で受け付けます。また、道内の電子書籍出版社（電子書籍の本屋さん　ドゥーパブ）でも無料で閲覧できます。http://dopub.jp/

☆ 編 集 後 記 ☆

北海道は過去に例を見ない連続台風に襲われ今なお大変な生活を強いられている人たちが多くおります。ここにお見舞いを申し上げますと共に、一日も早く災害復興を願うものです。さて今秋からは当 NPO 主催の事業が目白押しです。ひきこもりの真価が期待されています。皆さまのお越しをお待ちしています。

（発行責任者　理事長　田中　敦）

無　断　複　製　はおやめください